



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 平成から令和へ、昭和大学歯学部の より一層の躍進を目指して

歯科病院長 馬場 一美

本年5月に新天皇が即位され、「令和」という新たな時代が幕を開けました。海外に目を向けると、中国が飛躍的な技術革新を遂げ、今後の世界を変えるほどの影響を持つと言われる次世代モバイル通信「5G」のテクノロジー覇権争いをアメリカ合衆国と繰り広げるといふ、10年前では考えられないような事が起こっています。ブロックチェーン、IoT、AI、ビッグデータといった革新的な技術が実用化され始め、ソーシャルネットワークに代表されるサイバー空間上の出来事が現実世界に大きな影響を与えるようになり、2016年に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」が提唱する「Society 5.0」という新しいパラダイムへ社会が変革しつつあります。



現代歯科医学も先人たちの礎によって、平成の30年の間に目覚ましい変化・進歩を遂げてきました。歯科材料や接着歯学の進歩、CAD/CAMや光学印象に代表されるデジタル技術、インプラントや再生医療の発達、マイクロスコープの導入、マウスピース矯正、EBMの概念、患者中心型医療へのシフト、CBCT等の画像診断技術と枚挙に遑がありません。昭和の時代に歯学教育を受けた私にとっては学生時代に予想もしなかったことばかりですが、こうした進化が患者のQOL向上に与えた影響は計り知れません。本年3月にドイツのケルンで行われた国際デンタルショー(IDS)ではさらに進歩した歯科テクノロジーや製品が数多く展示されており、歯科の未来像を垣間見ることができました。

言うまでもなくアカデミアに在籍する我々には、こうした歯科医学の発展に貢献する責務があります。そのためには常に Creative, つまり創造性に富んだ発想・行動が要求されます。以下は米国のジャズ演奏家で人種隔離反対運動でも有名なチャールズ・ミンガスの引用です。

“Making the simple complicated is commonplace; making the complicated simple, awesomely simple, that’s creative.” (Charles Mingus, 1922-1979)

つまり、複雑なことや困難なことを単純化すること、できるだけ単純化すること、それが Creative であると

いうことです。新たな技術が日々開発され情報が氾濫し複雑化した現代においてこそ、ミガンズの言う Creative なマインドが必要とされると思います。

平成の時代に宮崎前歯学部長が築き上げて来られた輝かしい功績を、榎歯学部長が引き継がれて「令和」を迎えました。昭和大学歯学部の今後のさらなる発展のために、榎先生のリーダーシップのもと、皆で力を合わせて“Creative”に令和の時代を駆け抜けましょう。

## 小児成育歯科学講座の教授に就任

しました 小児成育歯科学講座 船津 敬弘

2019年4月1日付で昭和大学歯学部小児成育歯科学講座の教授ならびに歯科病院小児歯科の診療科長を拝命いたしました。私は本学の14期生で、卒業すぐに小児歯科の大学院に進み歯科医師人生をスタートさせましたが、2012年に小児歯科より障害者の歯科診療が独立し、スペシャルニーズ口腔医学講座障害者歯科学部門となってからは、そちらを担当しておりました。今回古巣である小児歯科を担当させていただくことになり、身が引き締まる思いしております。



小児の1人平均う蝕経験指数は乳歯列期2歯未満、永久歯列期1歯未満と、う蝕は私が歯科医師になった二十数年前と比較して激減しましたが、本学の小児歯科を訪れるお子さんは以前よりも増えております。主訴は多岐に亘り、う蝕はもちろん、外傷や埋伏歯、歯の萌出の問題や歯列不正、形成不全、先天欠如、歯肉炎や歯周疾患、摂食や発音などの機能的問題や先天的な問題まで様々あります。院内各科との連携が非常に強い本学であればお子さんが抱える口腔のあらゆる悩みにすべて応えることが可能であり、一般的な外来治療から入院していただく全身麻酔法まで、お子さん一人一人に適した対応をいたします。

臨床と同時に、将来臨床へ還元することを目的とした種々の基礎研究や臨床研究に関しても行ってまいります。学部教育から卒業研修を経て専門教育という一連の教育プログラムを整備し、将来的に本邦の小児歯科界を背負っていく後進の育成にも力を入れてまいります。私自身は微力ながらお子さんの口腔の健康を医局員と共に支えていく所存です。今後ご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

## 歯科理工学部門の教授に就任

しました

歯科理工学部門 柴田 陽

この度、昨年度末をもって退官された宮崎 隆先生の後任として、本年4月1日をもちまして歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門を担当することになりました柴田 陽です。私は昭和大学歯学部14期生で、同じく今年度から小児成育歯科学をご担当される船津教授とは同級生になります。



学生時代は弓道部に所属、残念ながら大した試合成績を残すことはできませんでしたが、歯学部弓道部部長を務められていた宮崎先生とお知り合いになることができたことは幸運でした。おそらくは、私の将来に一抹の不安を感じられた宮崎先生、私を精神的に鍛えなおす責任感に駆られたのでしょう。卒後は大学院生として研鑽を積むように強く勧めいただきました。主観ではありますが、バブル崩壊後の当時、新卒歯科医師の待遇は燦々たるものであり、“このまま社会に出るよりは、宮崎先生のお近くでのんびりさせてもらおう”，内弟子になるつもりで大学院への進学を決めました。当時の歯科理工学教室では、宮崎先生を除いたスタッフは准教授から研究補助員に至るまで昭和大学出身者で固められており、大先輩方には公私にわたり大変なご支援を頂きました。ここで一言、感謝の気持ちを伝えておきたいと存じます。

研究に本格的な興味を持つようになったのは、大学院修了後であったと記憶しております。理工学教室には宮崎先生をはじめ、先輩方のご尽力で最新の分析装置が揃っていたこともあり、これらを生体材料（組織）のキャラクター化に活用できないか、と考えました。生物学と材料学の間には、今もって大きなギャップがあり、隙間を埋めていくことで新たな発見や先端材料開発につながります。これら独立した分野を融合し、学際的な研究ネットワークを築く努力をしまいにしました。これまで以上に、国内外の研究者と分野の垣根を超えた連携を行い、昭和大学のWorld Reputationに貢献していく所存です。それが母校への恩返しであると考えています。どうか温かく見守っていただければ幸いです。

## ウィーン大学での選択実習に参加

しました

歯学部6年 奈良 麻衣 山口 紗季

私達は平成31年4月1日から26日までの約1カ月間、オーストリアのウィーン医科大学歯科病院での海外選択実習に参加しました。

今回、始めて研修に行くということで、前例がなく多

くの不安がありました。実習が始まってみると、先生方や学生は英語を話すことができるので、質問や会話は問題がありませんでした。しかし、患者さんとのやり取りは基本的にドイツ語でした。挨拶程度しか分からない私達には初めは大変でした。初めは学生が主に治療している科を見学させていただきました。学生や先生方は治療中でも治療の説明をしてくださって、よく理解することができました。実習スケジュールは初めの2週間がUNIT2という学生が主に治療する科で、顎関節治療科、矯正科はそれぞれ1日、口腔外科、救急・外傷はそれぞれ1週間ずつ見学いたしました。



同年代の学生が高い志を持って患者さんを治療している姿を見て、良い刺激をもらいました。今回の実習は将来を考える上で、貴重な経験となりました。最後になりましたが、今回の実習にあたって多くの支援してくださった宮崎先生、桑田先生、国際交流センターの先生方、実習でお世話になった先生方、学生の皆さんに感謝申し上げます。

## 東海大学での選択実習に参加

しました

歯学部6年 野口 知世

4月2日から3週間、東海大学医学部付属病院歯科口腔外科にて実習をさせて頂きました。この病院を選択した理由は、私は口腔外科の中でも特に興味を持っている分野“口腔癌”の症例数が多く、初期臨床研修先として視野に入れ選択しました。

実習では、月曜-木曜日に手術見学、金曜日に病棟処置・管理を見学しました。週1-2日で口腔癌頸部郭清術・再建まで行なわれており、この実習期間だけで4件見学させていただきました。腫瘍症例は最も興味のある分野でしたので印象的でしたし、白板症の舌部分切除術や表皮嚢胞など、5年次の実習では見学できなかった症例を見学できました。特に、解剖学的位置関係や基礎疾患・服用薬が手術時に与える影響、術後管理について学ばせていただきました。



今回の3週間の実習は、自分が成長できる良い機会でしたし、この時期に学外に出ることにより、将来を見据えた貴重な体験になると感じました。この度はお忙しい中、学外実習の機会を頂き有難うございました。ご指導いただきました東海大学医学部付属病院歯科口腔外科の先生方に改めて御礼申し上げます。



## 第4回口腔医科学フロンティアで奨励賞を受賞しました

口腔病理学部門 田中 準一

平成31年3月4日(月)から2日間に渡って長野県上諏訪温泉 HOTEL BENIYAにて開催された第4回口腔医科学フロンティアにて、奨励賞を受賞しました。

口腔医科学フロンティアは口腔医科学に関する研究基盤の構築を目的とし、平成14年に設立され12年間の活動の後、平成27年より現在の口腔医科学フロンティアとして活動を再開しました。初日に8個の演題発表と1つの特別講演が行われ、その後夕食会にて松本歯科大学の小林泰浩教授(写真中央)より奨励賞受賞者が発表されました。

今年の奨励賞は昭和大学の卒業生である東京大学の塚崎雅之先生(写真左)と私(写真右)の2名が受賞しました。



夕食後はフリーリサーチディスカッション兼懇親会が夜中まで続き、翌日の昼まで温泉を楽しみながら研究談義を楽しみました。普段の学会では聞けない細かな実験手法や苦労話などを発表者同士で話し合うことができ、非常に有意義な時間となりました。私の発表内容はマウスES細胞から機能的な唾液腺を誘導したもので、多くの先生から本研究の展開に関して、ご助言や応援のお言葉をいただきました。

## 海外留学生紹介

口腔微生物学講座 Nataša Trtić

Hello to everyone. My name is Nataša Trtić and I come from Bosnia and Herzegovina (B&H), Europe, where I work at the University of Banja Luka, the Faculty of Medicine, the Department of Dentistry, as the Chief of the Division of Periodontology and Oral Medicine. Within the division, I perform the duties of the assistant professor on the same subject. At the same time, I am also head of periodontology and oral medicine at the Specialist Center "Dental Clinic", which works under the framework of the Faculty of Medicine, where I work as a specialist in periodontology and oral medicine. This is the only center of its kind in the region of Republic of Srpska, B&H, where residents from various fields of dentistry from all over B&H have the opportunity to learn their future profession from experienced specialists.

Working at the clinic, with both patients and students has given me the opportunity to encounter a large number of patients with periodontal problems, and has made me realize that we needed to both do something in the prevention of this disease, as well as to solve the problem of regeneration of the alveolar bone. So far, in this area, I have published numerous scientific papers and this work has been recognized by regional Chamber of Dentists of the Republic of Srpska, B&H – through the award for the promotion of dental science. My PhD, among other things, also dealt with microbiology of rapidly developing periodontitis (aggressive periodontitis), and although the main focus was on the treatment of this disease, I was always thinking whether we could do more than just treat the disease.



The idea was that I would continue my research on regeneration of alveolar bone... however, as the result of fruitful conversations I had with Professor Hiroataka Kuwata, here I am, at Showa University, Department of Oral Microbiology and Immunology.

Ever since I arrived Prof. Kuwata and Dr. Itsumi have been providing unparalleled expert assistance to further understand this field of scientific research, as well as to learn more about mechanisms of defense of periodontal tissue from numerous etiological factors. Thanks to them, my knowledge in the field of immunology has been expanding every day. The warm and pleasant atmosphere in the Laboratory for Oral Microbiology and Immunology has made it possible for me to easily fit into a completely new environment. Friendly colleagues in a very pleasant working environment not only transfer their knowledge, but go an extra mile to help me tackle the everyday challenges that a new culture brings.

I am extremely grateful to Prof. Kuwata for giving me the opportunity to be a part of the team in his laboratory, where all my colleagues unselfishly convey their knowledge and I owe them a big "Domo arigatou gozaimasu".

Additionally, I am very thankful to the International Exchange Center for their continuous support.

## 海外留学生紹介

顎顔面口腔外科学部門  
Ramangason Jacques Adrien

My name is Ramangason Jacques Adrien from Madagascar. I'm dentist since 2006. And since 2007, I have been working at military hospital in Antananarivo (capital of Madagascar), occupying 2 official positions such as Assistant to the Department of oral and maxillofacial surgery and Deputy chief of Odontology Department. I also have a job as teacher at the two higher schools (dental and nurse school). The end of 2016, the dental specialty training competition is open in our dental school in Madagascar and I am allowed and choose oral surgery. I am therefore among the first promotion about the dental speciality in Madagascar. The training started on January 2017 and will end on December 2020 (4 years). We have a project to improve oral and maxillofacial surgery by all means in Madagascar.



### MY INTERESTING DURING INTERNSHIP IN JAPAN

I am interested on all cases in oral and maxillofacial surgery, especially cases do not exist yet or very little practiced in Madagascar such as orthognatic surgery, bone graft, surgery of oral cleft (lip, palate, alveolar) and Mandibular reconstruction.

### MY IMPRESSION IN TOKYO

1. Welcome: everyone treats me like a King here, it's a very warm welcome I've ever had in my life, you're all nice as an Angel, thank you very much.
2. Work schedule arrangement and timing: the work schedule is really impressed me as well as everyone working a lot and well
3. Cleanliness and city: in Madagascar I washed the shoes every two days but here in Tokyo it's been 45 days but they are still clean
4. Food: extremely delicious, I love Japanese food
5. I like a lot of other things (Nihon sake, Odaiba, supermarket ...)

### MESSAGE

I invite everyone to visit Madagascar and I will be delighted to welcome you. Thank you very much.

## 在宅チーム医療と倫理TBLを行いました

歯学教育学部門 片岡 竜太

昭和大学では「チーム医療ができる医療人の養成」

を目標として、4学部連携教育を推進しています。チーム医療教育の一つは6年次の急性期医療をテーマに学部連携病棟実習を卒前のゴールとする「学部連携PBL」で、歯学部学生は初年次に続き3、4年次に臨床的なシナリオに取り組んでいます。一方、在宅医療では患者・家族が望む生活とQOLの向上・維持を目的とする医療が中心で、学生は患者・家族の想い(ナラティブ)を把握し、倫理的問題も含めて適切に対応する基盤を築く必要があります。

そこで2016年から2年次に「在宅医療のNBMと倫理」という科目が導入され、今年度は「在宅医療を支えるNBMと倫理Ⅱ(2年次学部連携TBL)」として、4月4日、5日の2日間にわたり授業が行われました(医療倫理教育の手法として広く用いられている「4分割法」を活用した下記の授業の進め方から、従来のPBLと区別してTBL[Team Based Learning]と名称を変更しました)。

学生は、認知症の高齢女性(祖母)と同居する家族の生活の映像をみて、そこから得られた情報を「医学的視点」「祖母の想い」「祖母のQOL」「家族の状況」の4つの項目に整理します。その後、各グループ(4学部学生8名)でそれらの問題点と対応策について討議を行い、他グループの学生に説明し、討論を行います。最後に在宅医療を行っている楓の風 副代表の野島あけみ先生のリソース講義を聞き、グループごとにふり返しを行います。学生アンケートでは、95%以上の学生から「グループディスカッションで興味や考えが深まった」「医療の倫理的な問題の把握・解決に様々な視点や立場から考える重要性が理解できた」「倫理的価値観をさらに深める必要性を感じた」などの回答が得られました。

学生には、医療人としての倫理観を養い、患者・家族の想いや状況も考慮したうえで、他の医療職と協働してよりよい医療が提供できる歯科医師になってもらいたいと思います。

## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 6月2日(土): 昭和大学白菊の集い
- 6月9日(土): 父兄会総会
- 6月23日(土)~24日(日): 富士吉田校舎寮祭
- 6月24日(日): 富士吉田オープンキャンパス
- 6月30日(土): 昭和大学学士会例会(歯科病院)

## 編集後記

口腔衛生学部門 石川 健太郎

約200年ぶりとなる生前退位と新元号への移行に伴う大型連休、皆さまはどのように過ごされましたでしょうか。10連休明けのお忙しい中、ご寄稿頂きました皆様、ありがとうございました。